横浜市立大口台小学校　平成30年度　学力向上アクションプラン

1．中期学校経営方針より

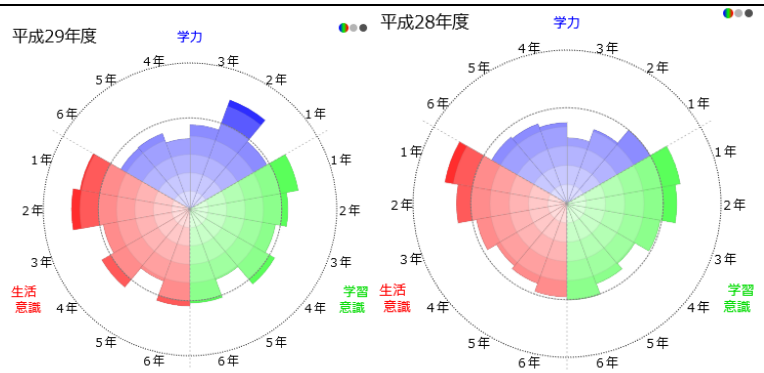
（1）学校経営中期取組目標

学　校　経　営　中　期　取　組　目　標
・全教職員が学校経営に主体的に参加し、活力と魅力あふれる学校づくりを推進します。 ・家庭・地域・関係機関との連携を図り、開かれた学校づくり・安全安心の学校づくりを進めます。 ・望ましい人間関係のもと「分かる授業」「楽しい授業」を目指して、基礎・基本の充実と授業の工夫を進めます。 ・計画的な健康教育の実践を図ります。

（2）学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取　組　目　標	具　体　的　取　組
確かな学力		・基礎学力の向上を図る。 ・楽しい分かる授業を展開する。 ・子ども一人ひとりに応じた指導を充実させる。	①研究会へ参加したり校内研修で指導法を学び合ったりしながら授業研究の推進を図る。 ②６０分授業を活用した漢字・計算などのスキルタイムの充実を図る。 ③学習習慣の定着を図るために家庭との連携を行う。
担当	教務部		

2．横浜市学力学習状況等からの実態把握



（1）学力の概要と要因の分析

２年生以外は、横浜市の平均を下回っている。学習意識及び生活意識においては、第１・２・４・６学年が市の平均を上回っており、前年度に比べると、意識が高まりつつあると考えられる。しかし「勉強が好きか」という設問では、肯定的な回答が、第１・２学年を除いて市の平均を下回る状況にある。また、「家では１日にどのくらい勉強しているか（塾や家庭教師は含まない）」という設問では、第３・５・６学年が市の平均を下回っている。

（2）教科学習の状況（昨年度の学年で表記）

○国語科：第１・３学年は市の平均とほぼ同じ。第２・５学年は上回っている。
○算数科：第２学年以外は市の平均を下回る。「技能」は中学年は市平均とほぼ同じで、低学年は上回っている。「知識・理解」は低学年が市の平均とほぼ同じである。
○社会科：第３学年が市平均とほぼ同じである。その他は市平均より下回る。
○理　科：全体的に市の平均より下回っている。「思考表現」では第３学年が、「知識・理解」では第６学年が、「技能」では第４・６学年が、市の平均とほぼ同じである。

（3）経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成 27 年度から 29 年度過去３年間の経年変化の状況から、学力については、学校全体として市平均とほぼ同じか下回ることで推移している。一方で、学習意識に関しては、下学年を中心に高まっている。中でも「授業では、自分の考えを発表しているか」については、ほぼ全学年で市平均を上回っているのを見ると、授業に積極的に取り組んでいる様子がうかがえる。また、「学校の授業はわかりやすいか」については、全体的にわかりやすいと答える割合が第１・２・４・６学年では高いが、「家では１日にどのくらい勉強しているか（塾や家庭教師は含まない）」については、市の平均を下回っている。

今後も、基礎学力の定着を図るために、家庭との連携をより一層深め、家庭学習の重要性を呼びかけ、授業への意欲の高さを家庭学習につなげ、学力向上に結び付けていく必要があると考える。

3. 平成３０年度　具体的方策

（1） 教員一人ひとりの授業力向上への取組

ア　課題解決型学習の具現化

○ノート指導、話合い活動の充実

自分の思考したことを根拠を明らかにして書くノート指導、それを基にした話合い活動の位置づけ。

○言語活動の充実

「言葉（音声)」「文章・文字」でのコミュニケーションの力の向上と育成に努める。

○基礎的・基本的な知識・技能の習得

６０分授業を活用したスキルタイム。

例）１５分スキルタイム（前時までの既習事項の確認）＋４５分授業

４５分授業＋１５分スキルタイム（本時の内容の習熟）　など

○研究・研修の充実

年間１回以上の「授業研究」を実施。

イ　個に応じた指導

○個別指導の充実

個の習熟に応じた適切な支援の方法について重点研究の算数を通して研究を行う。

スマイル教室の活用。

○特別支援教育の充実

東部療育センターのコンサルテーションをもとに、学級の児童に応じた環境や対応の仕方を工夫する。

（2） 学校組織としての取組

ア　課題解決型学習の具現化

○学習の基盤となる躾、学習規律の形成

挨拶、返事等、基本的な生活習慣の徹底。

話をしている人の顔を見て聴くことの徹底。

○研究・研修時間の確保

教員の研究・研修時間の確保を目指し、課題解決型の学習の具現化を図る。

イ　学校と家庭・地域の連携

○家庭学習の習慣化

家庭と連携し、各学年や各個人の必要に応じた家庭学習を呼びかける。

○学校評価の充実

授業参観、行事等を通して家庭・地域と共通理解をもって学校運営を行う。

ウ　学力向上アクションプランの検証と授業評価・学校評価

○全国学力・学習状況調査　　○横浜市学力・学習状況調査　　○学校つくり懇話会(年間２回以上)

（3） 学年・教科等としての取組

○ 基礎学力の定着を図るために

１学年

○ 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。

○ 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話する。

○ 読書の時間をこまめに取り入れるなど、本に親しむ機会を多く取り入れる。

２学年

○ 生活科等で、体験を通して自分の生活について考えられるよう報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にする場面を位置付ける。

○ 学習の流れを統一し、学習内容をわかりやすくする。

○話し合い活動を取り入れ、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりする機会を増やす。

３学年

○ 社会科等で見学・調査したことを説明する文章、記録する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話合いをする場面を位置付ける。

○ 理由や根拠を尋ねたり、まとめたり補足したりしながら話し合う。

○ 列挙したり、順序を付けたりして考える学習を計画的に行う。

４学年

○小テストや毎日の宿題を通して、既習の漢字の読み書きや基礎的な計算力が身に付くようにする。

○読み方や意味がわからない漢字や言葉があれば、自分で辞典を使って調べ、語彙を増やす。

○比較したり、関係付けたりして考える場面を設け、根拠をもって自分の考えを伝

５学年

○ 100 マス計算や漢字の音訓を重点的に行い、基礎学力の確実な定着を図る。また、文章を書いたり、解いた問題の説明をしたりといった、表現活動を大切にする。

○ 相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりしながら話し合う。

○ 関連付けたり、分類・整理したりして考える学習と振り返りを行う。

６学年

○ 小テストや振り返りプリントを行うことで、学習内容を整理して理解できるようにする。

○話し合い活動やグループ活動で自分の考えを伝える時間を充実させる。

○ 学習内容を関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを行う。

個別支援学級

○ 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。

○ 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行うようにする。

○ 子どもに応じたわかりやすい情報発信をするなど言語環境の整備を行うようにする。